



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—ダウ平均小幅に最高値更新 年末商戦への期待高まる—

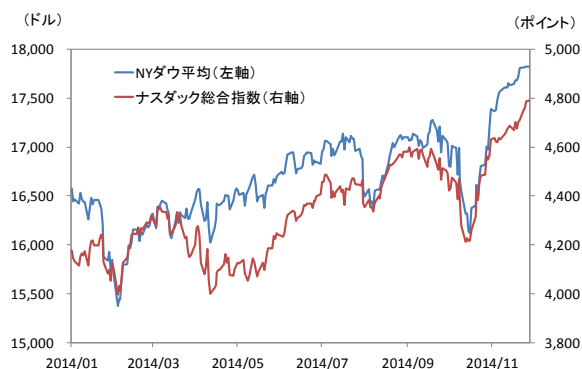
	前週終値	11月24日	11月25日	11月26日	11月27日	11月28日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,810.06	17,817.90	17,814.94	17,827.75	休場	17,828.24	+18.18	+0.10%
騰落幅		+7.84	-2.96	+12.81		+0.49		
S&P500	2,063.50	2,069.41	2,067.03	2,072.83		2,067.56		
騰落幅		+5.91	-2.38	+5.80		-5.27		
ナスダック総合指数	4,712.97	4,754.89	4,758.25	4,787.32	休場	4,791.63	+78.66	+1.67%
騰落幅		+41.92	+3.36	+29.07		+4.31		

<先週の概況>

先週の米国株式市場はダウ平均やS&P500が小幅に史上最高値を更新、ハイテク株比率の高いナスダック総合指数も年初来高値を更新しました。

OPEC（石油輸出国機構）が原油の減産を見送ったことで原油先物価格が大きく下落したことからエネルギー関連株が大きく売られたものの、ガソリン価格の値下がり個人消費の拡大につながるとして年末商戦への期待が高まり、小売企業などが買われました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	15.7	3.1	2.2%
S&P500	17.2	2.8	1.9%
ナスダック総合指数	23.9	3.6	1.1%

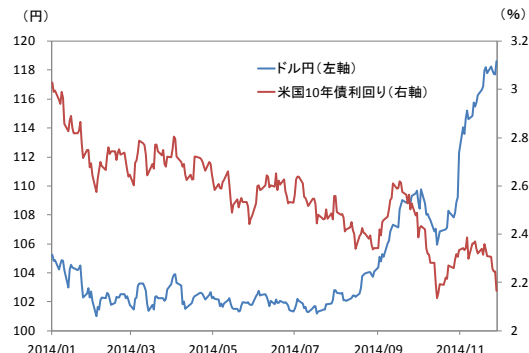
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2014年11月28日時点)

S&P500と予想PERの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

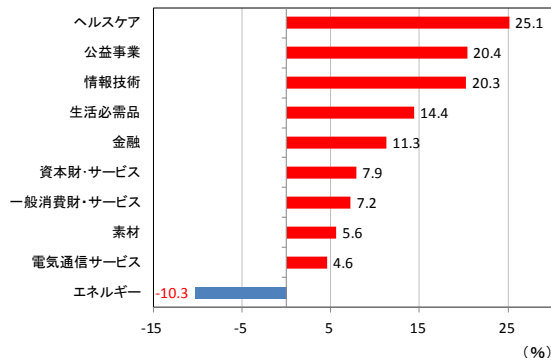
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

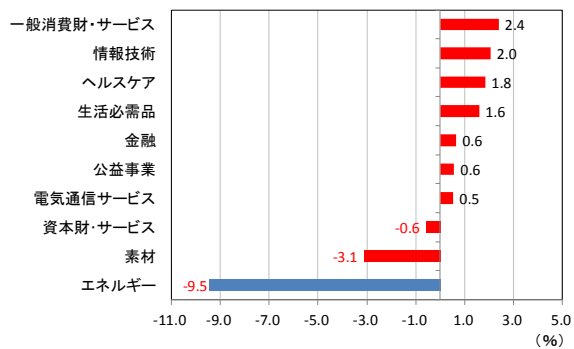
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(11/24-11/28)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
INTC	インテル	4.7
DIS	ウォルト・ディズニー	4.0
WMT	ウォルマート・ストアーズ	3.4
CSCO	シスコシステムズ	2.8
PFE	ファイザー	2.3
AXP	アメリカン・エクスプレス	2.2
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	2.1
UNH	ユナイテッドヘルス・グループ	2.0
NKE	ナイキ	1.9
V	Visa	1.6

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(11/24-11/28)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
CVX	シェブロン	-8.2
XOM	エクソンモービル	-6.5
CAT	キャタピラー	-5.5
GE	ゼネラル・エレクトリック	-1.9
DD	イー・アイ・デュポン・ドゥ・ヌムール	-1.0
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	-0.6
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	-0.5
MSFT	マイクロソフト	-0.4
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	-0.2
MMM	3M	0.0

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用銘柄のうち先週の上昇率が2位だったインテル (INTC) が今週も5%近い上昇で上昇率首位となりました。また、年末商戦への期待からウォルマート・ストアーズ (WMT) が買われ、3%を超える値上がりとなりました。

<下落>

原油価格の大幅な下落により、シェブロン (CVX) とエクソン・モービル (XOM) の原油大手2社が大きく下落しました。また、先週大きく上昇した建機大手のキャタピラー (CAT) の下落も目立ちました。

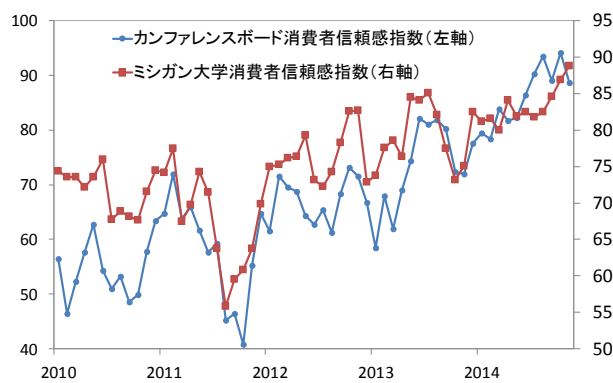
先週発表された主な経済指標

25日 カンファレンスボード消費者信頼感指数 11月 88.7 市場予想 96.0 前月 94.1

25日に発表された11月のカンファレンスボード消費者信頼感指数は88.7と市場予想を大きく下回り、前月から悪化しました。構成項目である期待指数が前月の93.8→87に大きく悪化しました。

水準としては9月の89.0とほぼ同水準で、現時点で過度に懸念する必要はないと考えられますが、年末商戦を前に消費者センチメントが悪化した点はやや気がかりです。

米国の消費者センチメント



(出所)マネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

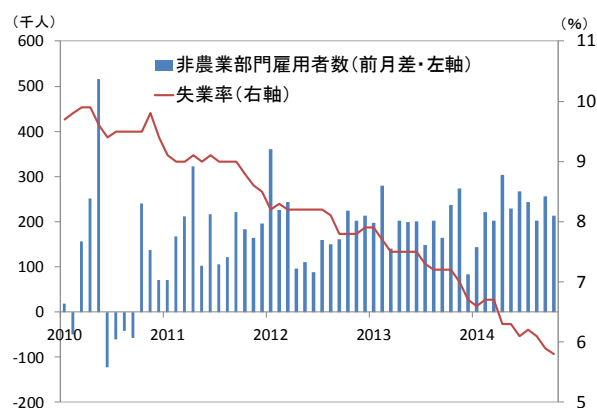
11月 非農業部門雇用者数(前月差) 市場予想 +22.8万人 前月 +21.4万人
 11月 失業率 市場予想 5.8% 前月 5.8%

今週は重要な経済指標が多く発表されます。まず、1日にISM製造業景況感指数、3日にISM非製造業景況感指数と地区連銀報告(バージュブック)、そして5日には雇用統計が発表されます。

労働市場の先行指標である新規失業保険申請件数は減少(望ましい)傾向が続いており、雇用統計も堅調な内容が期待されています。

市場予想では、非農業部門雇用者数は労働市場の堅調な回復の目安とされる前月差20万人増を上回る22万8000人増が予想されています。

非農業部門雇用者数と失業率



(出所)マネックス証券作成

マーケットビュー—重要指標の発表多く ダウ平均は1万8000ドルにタッチもー

先週のマーケットビューでは年末に株高傾向となるアノマリーをご紹介しました。今年もそのアノマリー通りとなるかご注目ください。

このところダウ平均は最高値更新とは言え小幅な値動きの日が多く、やや上値の重さが意識されつつありますが、今週は1日にISM製造業指数、3日はISM非製造業と地区連銀報告、さらに5日に雇用統計と重要な経済指標の発表が多く、指標の発表を受けて大きな値動きが出てくる可能性があります。

ダウ平均は28日時点の終値が1万7800ドルを超えており、各指標が堅調な内容となれば1万8000ドルにタッチという可能性もありそうです。なお、ISM製造業景況感指数の先行指標である各地区連銀の発表する11月の製造業景況感指数は、ニューヨーク・フィラデルフィア・カンザスシティが改善した一方リッチモンドは悪化、ダラスは横ばいという結果となっており、3勝1負1分けと、ISM製造業指数も好内容が期待できそうです。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会